

(仮称) 栗東市手話言語及び障がい者のコミュニケーション支援に関する条例  
当事者からの聞き取りであった主な意見

- ① 栗東市聴覚障害者協会 12/8 (土) 13:00~15:00 (4名)  
1/15 (火) 18:30~20:00 (4名)

- ・手話はろうあ者にとって、コミュニケーション手段である前に、言語である。言語としての手話と、コミュニケーションとしての手話を分けて考えてほしい。言語が基礎となり、その上で使う手段としてのコミュニケーションがある、そういう理解にしていきたい。
- ・手話言語について、誤った認識で広まってしまっていることが心配。議員、当事者、行政職員で、言語とは何か、コミュニケーションとは何か、言語としての手話と、コミュニケーションとしての手話の違いは何かという学習会の場を持ってほしい。
- ・聴覚障がい者は文章が苦手な人が多いので、条例や要綱の言葉を、誰にでもわかりやすいように、やさしい言葉で書いてほしい。
- ・ろうあ者の場合、ろう学校などで、発音を教えてもらっている。しかし、聞こえる人に変な発音、イントネーションだと思われ、馬鹿にされることもある。そのために、ろうあ者に対するたくさんの誤解が起こっている。ろうあ者は話せないというイメージが長くあった。ろう教育で、聞こえない人は話すために厳しい口話訓練を受けてきた。そのおかげで話せる人もいるが、どうやっても難しい人もいる。
- ・言語としての手話を正しく学ぶきっかけがあれば、ろうあ者もきちっと意思表示できる。手話があるという認識が広がり、聞こえない子どもも、幼い頃から手話のある環境で育つことができれば、より生き生きとできると思う。この条例が、ろうあ者がきちっと言語をもって生きる保障につながれば良いと考えている。
- ・バス停で、バスが行ったかどうか分からない時がある。交通情報が、視覚的に分かりやすくなると、聞こえる聞こえないに関係なく、利用する人みんなにとって便利なシステムになると思う。
- ・難聴者を含め、手話を学ぶことができる場を設けてほしい。

## ② 特定非営利活動法人しが盲ろう者友の会 12/21 (金) 16:00~17:15 (2名)

- ・市役所に行った際に、声をかけてくれ、ずっと付き添ってくれる職員がいたら安心。以前、福祉課に行くとき必ず「何の用事ですか？」と声をかけて、手伝ってくれる人がいた。手続きがスムーズで助かった。
- ・文字が読めないため、役所等で署名は代筆を依頼している。職員の理解のない言葉によって、市役所に行きにくくなった。
- ・今後もっと目が見えなくなると、買い物や病院受診の際も通訳介助を利用したくなるかもしれない。その場合、県の派遣上限 20 時間を超えた分について、市で対応してもらえたら安心。
- ・目が濁っていないから、「目がきれいだね。どうもなさそうだね。」と言われたことがある。実際は見えにくいのに複雑な気持ちになった。見えないといっても、いろんな人がいると理解してほしい。

## ③ 滋賀県中途失聴難聴者協会 12/21 (金) 18:00~19:45 (2名)

- ・大勢の人がいる場所での会話が聞き取れない。早口で話されるとわからないことがある。  
人それぞれ聞こえ方が違う。聞き取りやすい声も違う。同じトーンでも、聞き取れる声とそうでない声がある。自分の聞こえ方について相手に説明するのが難しく、言い方に困る。
- ・聞こえる人から「聞こえているの？聞こえていないの？」と 2 択で質問されることがあるが、聞こえているが言葉が認識できていない場合もあるので、3 パターンあると知ってほしい。
- ・歯医者に行った際、目を隠されてしまうので、声が聞こえず状況が分からないまま無理やり口をあけられたりすると不安になる。
- ・聴覚障がい者をひととくくりにして見られてしまうことが多い。ろう者は「耳が悪いんだな」と重く見られて、自分のような難聴者は障がいの程度を軽く見られているのではと感じることがある。
- ・職場の人にも、自分が声を出して話せるから、聞こえないということを忘れられてしまい、音声のみでの会話が進み、分からない部分があっても、話を途中で止めにくくなってしまふ。筆談も交えながら話してもらおうと安心だが、聞こえる人にとっては、書くわずらわしさがあると思うから遠慮してしまう。
- ・難聴者が参加しやすい手話サークルがあれば、参加したい。